

平成 28 年度 第 1 回 山科区民まちづくり会議グループ別討議まとめ

【Ⅰ 環境を守り継ぐ】

1 「第 2 期山科区基本計画」の進ちょく評価方法の見直しについて

(1) 区民アンケート（案）について

- 環境分野は、学区ごとの差が大きいと考えられるため、学区ごとの意見を集計することが必要。学区ごとの意見が分かればそれ次年度からの取組に活かすことができるのではないかな。
- 環境分野についても、自由記述欄を設けて、多様な意見を拾っていけるようにするべきである。
- 回答率 3 割では足りない。対象者に郵送するだけでなく、直接渡してできるだけ回答してもらうべきである。

(2) 客観指標（案）について

- ごみの排出量は分かりやすい指標でよい。
- 公園愛護協力会の清掃回数では、区民の自主的な公園清掃が入らないため指標として問題がある。
- てんぷら油の回収量に、乾電池の回収等様々な指標を加えて、ごみの発生抑制について総合的に判断するべきである。
- 環境美化の取組について、2 万人まち美化作戦の参加人数や、エコまちステーションで配布している清掃用ゴミ袋の配布枚数を指標にしてはどうか。
- 環境学習の分野について、小学校、中学校の環境学習の時間数を指標にしてはどうか。
- 地球温暖化対策の推進の分野について、自動車保有台数ではなく、敬老乗車証の申請件数にすべき。

2 「第 2 期山科区基本計画」の実現に向けた課題及び改善点について

- 山科では、ごみの分別は進んでおり、まちもきれいである。一方で、CO₂ 排出量の削減は進んでいないように感じる。ただし、この問題は、交通問題と密接に関わっており、解決は難しい。

【Ⅱ まちの魅力・観光を磨く】

1 「第2期山科区基本計画」の進ちょく評価方法の見直しについて

(1) 区民アンケート(案)について

《アンケート(案)全体について》

- 大学生は住民票を移していない人が多く、アンケートの対象から外れてしまう。別途、大学生に対してアンケートを行ってはどうか。

《各設問について》

- 【問5】京都市全体の伝統産業についての質問ととらえられる場合があるので、山科の伝統産業品の具体例(清水焼、仏具等)を記載しておいたほうがよい。
- 【問6】山科の農産物の具体例(山科なす、とうがらし等)を記載しておいたほうがよい。
- 【問10】必要なものの選択肢として、観光業者も加えた方がよい。
- 【問11～問13】利用している人や、関心がある人しか答えることができないのではないか。そもそもどのような施設等があるのかがわからない人、施設等を利用する意思がない人は回答が難しい。「分からない」の選択肢を設けるなど、問い方を工夫するべき。

(2) 客観指標(案)について

- 観光基盤の整備の分野について、食事施設、宿泊施設の数を指標にすべき。
- 各観光施設におけるタクシーでの来場者数などを指標にすべき。
- 農業分野は、生産量に加えて、売上高や農地面積も指標になる。
- 担い手分野については、農業従事者数や家族の年齢なども指標にすべき。
- まち歩き事業は、安全面などから、1回の事業で参加できる人数が決まっていることから、参加者数ではなく、実施回数の方が指標としてふさわしい。
- 文化芸術活動の振興分野について、区内で行われているお祭りの来場者数や寺社仏閣への拝観者数を指標にすべき。
- 区民スポーツの振興の分野について、新記録が出た数を指標にすべき。

【Ⅲ 交通・都市基盤を強化する】

1 「第2期山科区基本計画」の進ちょく評価方法の見直しについて

(1) 区民アンケート(案)について

《アンケート(案)全体について》

- 市民の生の意見を聞いていくという評価の方法は良い方向性であり評価できる。
- 項目がすでに多いので、修正するとしたら減らす方向にしたい。

《各設問について》

- 【問15・18】計画には、交通安全の項目があるが、アンケートにはない。問15と問18が似ているので、これを統合して交通安全を入れてはどうか。(統合したとしても、「景観」のキーワードが抜けないように注意が必要)

(2) 客観指標(案)について

- 幹線道路の交通対策の分野について、市で5年に1回行う交通量調査のデータを指標として使用できるのではないかな。
- 歩行者ネットワークの整備の分野については、歩道の整備状況だけではなく、歩道がどのようにつながっているかの方が指標としてふさわしい。「バリアフリーになっている歩道の整備率」であれば意味があるのではないかな。
- 公共交通ネットワークの充実の分野について、ネットワークというからには、地下鉄の乗降客数だけではなく、地下鉄から遠い地域と、山科がどうつながっているか(→「地下鉄から遠い地域が山科の中でどうつながっているか」という表現はいかがですか?)の指標が必要である。
- 災害に強い都市構造の分野については、水害について指標が必要。区内の床下浸水数や、町内で水害対策をしている町内会の数(土木事務所に土のう袋をもらいに来ている数)が指標と考えられる。
- 良好な景観の保全と創出の分野については、違反数は公表できないにしても、違反数の増減は指標にできるのではないかな。

2 「第2期山科区基本計画」の実現に向けた課題及び改善点について

- 基本施策Ⅲを推進していくには予算が必要。
- 自転車マナーの向上は、区内で熱心に取り組まれている。
- 「山科区公共交通利用促進協議会」にもっと多様なメンバーを入れ、山科全域について議論していくべき。
- 地下鉄の駅から遠いエリアへの交通対策を進めるべき。

【Ⅳ－① 保健・福祉・子育て支援を充実させる】

1 「第2期山科区基本計画」の進ちょく評価方法の見直しについて

(1) 区民アンケート（案）について

《アンケート（案）全体について》

- 設問の文言が当たり前すぎて漠然としていることから、「どちらとも言えない」など真ん中の選択肢に回答が集中するのではないかな。もう少し具体的な設問にすべき。
- 学校教育の充実など、基本計画とアンケート、客観指標が合致していない分野がある。計画に沿った形での設問が必要。
- 知らない、分からない人が、そう思わないに○を付けることを防ぐために、「知らない」・「分からない」が選択肢にあった方がいい。
- 区民の取組みなど、行政がすべて把握するのは難しいのではないかな。

《各設問について》

- 【問20・問22】両者は内容が被っており、どちらか1つのみで良いのではないかな。問20を残すのであれば、未就学児対象であることを明記するべき。

(2) 客観指標（案）について

- 高齢期の活動拡大の分野について、老人クラブの会員数が挙げられているが、そもそも、区内に老人クラブの対象者が何人いるのかも併せて押さえていく必要がある。また、フリースペースは、設置数は増えてはいるので、設置数だけではなく利用者数も指標にすべき。
- 放課後児童対策の充実の児童館等の登録者数も、対象者の人数も押さえておく必要がある。
- 青少年の健全育成の分野について、青少年が行った地域ボランティアの数を指標にする。

2 「第2期山科区基本計画」の実現に向けた課題及び改善点について

- 現在行われている取組だけでは、推進に限界がある。子ども食堂など、新たな仕組みを作る必要がある。
- 子育て支援は、いろいろな種類の支援を選べる方が良い。また、その情報を必要な人に提供することが大切。
- 子育てしている人（主に母親）の様々な居場所を作る必要もある。

【Ⅳ－② 保健・福祉・子育て支援を充実させる】

1 「第2期山科区基本計画」の進ちよく評価方法の見直しについて

(1) 区民アンケート（案）について

- 計画策定当時から、社会のニーズが変化してきており、計画の取組内容そのものが古くなっている。その遅れているものの実感を聞いても正しく現状が把握できるか疑問である。
- 福祉分野は、サービスを受けている当事者でないと、充実度は分からないのではないか。
- 設問の中に、福祉サービス具体例を示してはどうか。
- 追加質問については、多様な意見を拾うため、自由記述欄の方がよいのではないか。
- 調査対象は、山科の実態を踏まえた年齢構成にするべきである。

(2) 客観指標（案）について

- 防災分野が福祉分野と密接に関わっているなど、地域において、ニーズや課題は複雑化している。行政分野で現状と課題を捉えていくことに限界があるのではないか。
- 子ども食堂など、公が実施主体ではない民間が行っている取組が増えている。計画の進捗状況において、民間独自の取組みについてもフォローしていくべきである。

2 「第2期山科区基本計画」の実現に向けた課題及び改善点について

- 施策や事業に積極的につながれる人とそうでない人との間で差が生じている。つながることができない人たちへのフォローが必要である。

【V 地域のつながりを強める】

1 「第2期山科区基本計画」の進ちょく評価方法の見直しについて

(1) 区民アンケート（案）について

《アンケート（案）全体について》

- 平易な言葉に変える、イメージしやすいように、取組の事例を示すなど回答する区民の立場に立った設問の工夫が必要。
- 回答率が3割では足りない。アンケート実施前に、若者世代を中心に、アンケートを実施することについて啓発を行うべき。
- 回答の参考になる基本計画がホームページでしか見ることができないことは問題。区役所に取りに来ればもらえるような1文を加えるべき。

《各設問について》

- 【問 24】非行に走るという文言は、山科のイメージを下げるため問題。「非行防止の取組が充実している」などに変えるべき。
- 【問 37】「困った時に相談できる人がいる仕組が充実している」という分かりやすい表現に変えるべき。
- 【問 38】防災訓練のほかに、日常の見守りや連絡網などの例示を記載すべきである。
- 【問 42～44】市民しんぶん以外に、行政情報をどのように収集しているかどうかの設問も設けるべきである。
- 【自由記述欄】行政に望むことだけではなく、一緒にやりたいことなども書けるようにするべき。

(2) 客観指標（案）について

- 地域の福祉力の強化の分野について、社会福祉協議会の賛助会員数を指標に加えるべき。
- 地域防犯体制の強化と生活安全対策の充実の分野について、刑法犯認知件数は、マイナスイメージがある。それに代わって、あるいは、それに加えて地域で行っているパトロールの回数を指標に加えるべき。

2 「第2期山科区基本計画」の実現に向けた課題及び改善点について

- 担い手不足が課題である。学区によっては、20代・30代の親を、子どもが中学校卒業後も地域につなぎとめておく循環ができているところがある。そのようなすぐれた手法を他の学区に広げていくような機会を設けるべきで。
- 地域の担い手を育成するまでに、まずは、多世代が交流できるような場を活性化し、出会って話すことができる機会を作ることが必要。